

<国際金融パネル>

中国と東南アジアにおける邦銀の事業展開：現状と課題

神戸大学 岩壺健太郎

中堅・中小企業の積極的な中国・東南アジア進出に対応して、近年、地域銀行（地方銀行および第二地方銀行）や信用金庫の海外進出が盛んになっている。具体的には、中国やタイ、シンガポールに駐在員事務所を開設したり、現地の地場銀行と業務提携を締結したりすることで、取引先企業に対する進出支援を行っている。

本報告では、中国・タイ・シンガポールを対象として実施したアンケート調査および現地ヒアリングの結果をもとに、邦銀の海外展開の現状と課題を明らかにする。調査結果の概要は以下の通り。

1. メガバンク 3 行と地域銀行・信用金庫では、海外の進出形態に大きな違いがある。フルバンクのライセンスが付与されているメガバンクは主要都市に支店や現地法人を設け、現地通貨での融資を行っているが、営業活動が認められていない地域銀行・信用金庫は現地駐在員事務所を開設、または現地の地場企業との提携を通じた進出企業支援であり、事業内容に制約がある。
2. 中国におけるメガバンクの現状と課題
①預貸率規制、金利規制、総量規制など銀行に対する規制、②投中差、外貨管理規制など貸出先企業に対する規制、③金融規制が頻繁に変更されること、④現地地場企業の信用情報の入手が困難、⑤支店運営のコスト高などの問題がある。ただし、自由な競争を阻害する金利規制はコストである一方、高い利ザヤを得られるというベネフィットでもある。近年、金利自由化が進んできており、銀行間競争が高まっている。業務拡大に伴い人民元の調達能力が課題になる可能性がある。
3. 中国における地方銀行・信用金庫の現状と課題
人民元融資は提携する地場銀行に頼らざるを得ないが、スタンバイ L/C に対する補償料の支払いの分、高金利になりやすく、取引先企業にとっても地域銀行にとってもメリットが少ない。そのため、メガバンクと比べて競争力に欠ける面がある。
4. タイにおけるメガバンクの現状と課題
日系大企業の資金需要はそれほど大きくないため、地場企業を含む非日系企業・リテールへの融資を拡大することが課題。三菱東京 UFJ 銀行はタイのアユタヤ銀行（地場銀行 5 位）を買収し、三井住友銀行はインドネシアの年金貯蓄銀行（BTPN）に出資するなど、地場銀行への買収・資本参加が本格化している。
5. タイにおける地方銀行・信用金庫の現状と課題
現地通貨建ての資金需要が高まっており、提携銀行との提携が急増しているが、提携銀行による融資は収益性が低いので、クロスボーダー融資を積極化させるのが得策。そのためには、ノウハウの確立と業務コストの削減が不可欠であろう。